

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②		11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教にかんしても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

- 1 導入
- 2 聖書と歴史
- 3 出エジプトと歴史研究(1)
- 4 出エジプトと歴史研究(1)
- 5 古代における宇宙観
- 6 古代における天動説と地動説
- 7 中世における天動説
- 8 コペルニクス(1)
- 9 コペルニクス(2)
- 10 ジョルダナーノ・ブルーノの地動説
- 11 ガリレオ・ガリレイ(1)
- 12 ガリレオガリレイ(2)
- 13 科学の発達とキリスト教
- 14 聖骸布
- 15 まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めない。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 I	ET①/ET②/PC①/PC②/PC③/PC④		11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正/佐伯 瑠璃子/中園 佐恵子/渋谷 美智/山本 直子/渡邊 恵梨佳	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、I（知性）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
- (2)言語1
- 2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- (1)言語2
- (2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- (1)言語3
- (2)キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
- (1)言語4
- (2)キャンパスライフ(相談)
- (1)社会1
- (2)キャンパスライフ(課外活動について)
- (1)社会2
- (2)キャンパスライフ(課外活動について)
- (1)社会3
- (2)キャンパスライフ(課外活動)
- (1)社会4
- (2)スタディスキル(受講)
- (1)数学1
- (2)スタディスキル(理解と表現1)
- (1)数学2
- (2)スタディスキル(理解と表現2)
- (1)数学3

- (2)キャンパスライフ(今後の学修について)
- (1)数学4
- (2)キャンパスライフ(学生相談)
- (1)確認試験1
- (2)スタディスキル(理解と表現3)
- (1)確認試験2
- (2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル 50%（平常点70% 定期試験30%）
後半学習50%（平常点70% eラーニング30%）

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）
3訂 大学 学びのことははじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	ET①/ET②/PC①/PC②/PC③/PC④		11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正／佐伯 瑠璃子／中国 佐恵子／渋谷 美智／山本 直子／渡邊 恵梨佳	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、I（知性）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、資格免許を取得するための実習について、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1
- (1)言語1
(2)オリエンテーション
- 2
- (1)言語2
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 3
- (1)言語3
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 4
- (1)言語4
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 5
- (1)社会1
(2)スタディスキル(教学カルテ入力について)
- 6
- (1)社会2
(2)キャリアデザイン(社会意識1)
- 7
- (1)社会3
(2)キャリアデザイン(社会意識2)
- 8
- (1)社会4
(2)キャリアデザイン(社会意識3)
- 9
- (1)数学1
(2)キャリアデザイン(社会意識4)
- 10
- (1)数学2
(2)スタディスキル(リサーチ1)
- 11
- (1)数学3
(2)スタディスキル(リサーチ2)

- 12
- (1)数学4
(2)スタディスキル(リサーチ3)
- 13
- (1)確認試験1
(2)社会人への一歩(今後の学修について)
- 14
- (1)確認試験2
(2)スタディスキル(リサーチ4)
- 15
- (1)確認試験3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかり、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法、その他

リメディアル50％（平常点70％ 定期試験30％）
後半学修50％（平常点60％ eラーニング30％ 教学カルテ10％）

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）
3訂 大学 学びのことははじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を取らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ	ET①/ET②/PC①/PC②/PC③		11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子／吉野 美智子／渋谷 美智／南 夏世／山本 直子	必修	1				

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史について理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目について学び、並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、内面的に自らを磨き、自身のキャリアデザインを描くとともに、自らの考えを構築していく。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつける。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムでは、社会で働くことや職種・業界などについて学び、自身の将来に意識を向けていく。

また海星学ⅠⅡを通して、提示されたボランティア活動に参加し、自身の経験や社会性などを育む。授業は内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

- 1
- ポートフォリオ(学生カルテ)
- 2
- 海星学とは
- 3
- キャリアプログラム1「社会を知る・年金制度」
- 4
- キャリアプログラム2「社会で働くとは」
- 5
- キャリアプログラム3「職種・業界を学ぶ」
- 6
- キャリアプログラム4「キャリアを考える」
- 7
- 進路を踏まえた今後の学びについて
- 8
- 海星の歴史と建学の精神
- 9
- KAISEIパーソナリティについて
- 10
- KAISEIパーソナリティについて
- 11
- KAISEIパーソナリティについて
- 12
- KAISEIパーソナリティについて
- 13
- KAISEIパーソナリティについて
- 14
- 海星学の理解と自分の振り返り
- 15
- ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形態で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①
- 各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
- ②
- 平常点40％、定期試験30％ eラーニング30％

欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

テキスト

プリントを使用

留意事項

ステラワーク（スタンダード）の実力診断テストを、同じ科目に偏ることなく100点10クリアすること。
教学カルテを入力しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

演習のテーマは、「ツーリズム&ホスピタリティ産業におけるマネジメント」である。製品特性である無形性、変動性、不可分性、消滅性を克服するためにどのような事業戦略が必要かを考察する。ツーリズム&ホスピタリティ産業において課題を抽出し、解決の糸口を導き出す手法を身につけるのが目標である。さらに、労働生産性の向上とホスピタリティの関係や、各業界における市場特性を理解する。PBLで考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。特に古民家再生による宿泊業に焦点を当てホスピタリティの価値、労働生産性向上を踏まえ地域活性化の現状を理解する。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から問題の核心に迫る。

授業計画

- 1 演習の概要説明
- 2 地域振興と古民家再生を考える(1)
- 3 地域振興と古民家再生を考える(2)
- 4 地域と観光の市場環境(マクロ環境)
- 5 ビジネスフレームワーク(5 focusの理解)
- 6 ビジネスフレームワーク(SegmentationとTargettingの理解)
- 7 従業員エンゲージメントと労働生産性
- 8 組織論(多元型と進化型)
- 9 フィールドワーク準備
- 10 フィールドワーク準備
- 11 フィールドワーク準備
- 12 フィールドワーク実施
- 13 フィールドワークのまとめ
- 14 フィールドワークのまとめ
- 15 フィールドワークのまとめ

授業の方法

PBL (project Based Learning) によるフィールドワークの実践。座

学と古民家再生の宿泊事業案件の調査する。レポートやPowerPointを使用しディスカッションする。

準備学修

観光業界紙での事前情報収集などで準備する。

課題・評価方法、その他

事前学習課題50%

発表50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

下記のいずれかを購入すること

浜田麻里他(2012)『論文ワークブック』くろしお出版
小笠原喜康(2002)『大学生のためのレポート・論文術』講談社
*このテキストは演習Ⅲ・Ⅳでも使用する。

参考図書

内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

演習は一人一人が積極的に参加が必要であり、学外でのフィールドワークを実施する。週末、夏休みに実施予定である。観光マーケティング論、ホスピタリティマネジメントを受講すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	e		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 New Yorkers
- 3 New Yorkers
- 4 New Yorkers
- 5 New Yorkers
- 6 New Yorkers
- 7 New Yorkers: presentation
- 8 Hamlet
- 9 Hamlet
- 10 Hamlet
- 11 Hamlet
- 12 Hamlet
- 13 Hamlet: interpretation
- 14 Hamlet: interpretation
- 15 Hamlet: presentation

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

ツーリズム&ホスピタリティ産業における課題を研究テーマに置く。中心となる分野はマネジメントとマーケティングである。特に、ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティの関係や、市場特性の理解をすすめる。PBLを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を維持し、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習Ⅱでは、演習Ⅰでツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問した結果をレポートやPowerPointにまとめプレゼンテーションをおこないます。

授業計画

- 1 演習の概要説明
- 2 フィールドワークの結果をPowerPointにまとめる。
- 3 フィールドワークの結果をPowerPointにまとめる。
- 4 ビジネスフレームワーク復習
- 5 ビジネスフレームワーク復習
- 6 ビジネスフレームワーク復習
- 7 卒業研究の取組について
- 8 卒業研究のテーマと先行研究①
- 9 卒業研究のテーマと先行研究②
- 10 卒業研究のテーマと先行研究③
- 11 卒業研究のテーマの発表①
- 12 卒業研究のテーマの発表②
- 13 卒業研究のテーマの発表③
- 14 卒業研究のテーマの発表④
- 15 まとめ
- 16

授業の方法

演習を通してアクティブラーニングがおこなわれる。各個人の発

表、意見交換を重視する。

準備学修

観光関連の新聞、雑誌を読み、ツーリズム&ホスピタリティ業界の事前学習をおこなう。

課題・評価方法、その他

課題50%、発表50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

演習Ⅰと同じ

参考図書

内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
 内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
 Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
 M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
 Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社
 浜田麻里他（2012）『論文ワークブック』くろしお出版
 小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社

留意事項

イベントへの参加やチーム課題が多くあり、個人的都合で欠席等は認めません。積極的な姿勢で臨む事。演習受講者は、観光マーケティング論・ホスピタリティマネジメントを履修すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

- 1 研究の進め方
- 2 研究テーマについて発表
- 3 卒業研究の書き方(研究計画について)
- 4 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
- 5 個人発表と質疑応答
- 6 個人発表と質疑応答
- 7 個人発表と質疑応答
- 8 個人発表と質疑応答
- 9 個人発表と質疑応答
- 10 個人発表と質疑応答
- 11 個人発表と質疑応答
- 12 個人発表と質疑応答
- 13 研究計画書の発表
- 14 研究計画書の発表
- 15 まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法、その他

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

テキストは3年次購入した研究論文の書き方を使用する。

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

個別の研究テーマに取り組めます。積極的に研究課題に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域のマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的にまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、各自の進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

- 1 ガイダンスとスケジュールの決定
- 2 卒業研究作成におけるwordの使い方
- 3 卒業研究の参考文献・引用文献について
- 4 卒業研究のアンケートと図表について
- 5 個人研究発表
- 6 個人研究発表
- 7 個人研究発表
- 8 個人研究発表
- 9 個人研究発表
- 10 個人研究発表
- 11 個人研究発表
- 12 個人研究発表
(研究成果の提出)
- 13 個人研究発表
- 14 個人研究発表
- 15 口頭試問

授業の方法

個人発表とディカッションを中心におこなう。

準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介する。読んでレポートする

こと。

課題・評価方法、その他

個人研究の内容と発表を評価対象とする。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
 内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
 内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
 Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
 M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
 Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社
 浜田麻里他（2012）『論文ワークブック』くろしお出版
 小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社

留意事項

発表者は欠席してはならない。病気等欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらうこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 くコア・イングリッシュく	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 402	402-3/402-4		13929	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 7 Classifying classmates
- 3 Unit 7 Classifying classmates
- 4 Unit 8 The job interview
- 5 Unit 8 The job interview
- 6 Unit 9 Personal goals
- 7 Unit 9 Personal goals
- 8 Mid Term
- 9 Unit 10 Architect
- 10 Unit 10 Architect
- 11 Unit 11 My role models
- 12 Unit 11 My role models
- 13 Unit 12 Be a reporter
- 14 Unit 12 Be a reporter
- 15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge Writing from Within Level 2, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目 く異文化理解く	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	ホテル実務			

授業の到達目標

ホスピタリティは産業界では魔法の言葉の様に使われている。「ホスピタリティ溢れる企業だ」「我社はホスピタリティを提供している」など様々である。本来のホスピタリティとはどのようなものを歴史的視点、宗教的視点から考察する。日本語では「おもてなし」とも訳されているが、本来のホスピタリティとは何かを説明できることがこの授業の到達目標である。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を目指す。

授業の概要

授業は、ホスピタリティを歴史的視点から考察するだけでなく、宗教的視点からも考察する。特に、キリスト教の聖書からホスピタリティ精神の理解を深める。さらに、現代社会でのユニバーサルデザインに注目し、ホスピタリティ精神の活用を検証する。観光産業におけるユニバーサルとホスピタリティとの関係を理解する。ホスピタリティ精神に基づくユニバーサル対応の接遇マニュアルの解説も行う。

授業計画

- 1 ガイダンス
(ホスピタリティ精神とはどのような意味か、また何を学修するのか。)
- 2 世界の宗教
(奉仕の精神で、何だろう)
- 3 聖地巡礼とホスピタリティ精神
(いつか訪れたい聖地)
- 4 ホスピタリティと都市国家
(ボリスに暮らす人たちはどのように身を守ったのだろうか)
- 5 組織とホスピタリティ
(経営者はどのようにホスピタリティ精神を活用すべきか)
- 6 ホスピタリティとマナー
(マナーでホスピタリティと違うの)
- 7 ユニバーサルデザイン
(ユニバーサルデザインはあなたの周りに沢山あります)
- 8 ユニバーサルデザインに基づく接遇
(ユニバーサルデザインはハードだけでなく、ソフトの重要です)
- 9 接遇マニュアル宿泊部門
(宿泊接遇のポイントを学ぼう)

- 10 旅行代理店とユニバーサルツーリズム
(ユニバーサルツーリズムとはどのような旅なの)
- 11 観光都市とユニバーサル
(都市経営に必要なユニバーサルデザイン、少子高齢化の未来へ挑戦)
- 12 医療とホスピタリティ
(医療現場で患者を○○様と呼ぶ?)
- 13 ホテル業に観るホスピタリティ
(サービスを超越するホスピタリティとはどのようなこと)
- 14 まとめとホスピタリティ精神についてグループディスカッション
(どれだけホスピタリティ精神を理解したでしょう)
- 15 統括試験とホスピタリティの課題
- 16

授業の方法

PowerPointによる講義と受講者間の意見交換を中心に進めていく。

準備学修

聖書の中からホスピタリティ関連の言葉（文例）を探しておくこと。

課題・評価方法、その他

課題30%
総括試験70%

欠席について

大学規定通り

テキスト

特になし
適宜資料配布

参考図書

聖書

留意事項

必修科目です。ノートをとること。

オフィスアワー

指定日に研究室で実施。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ（海外）			13967	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、In（国際性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

興味のある学生は登録のうえ、選択するプログラムをメールで連絡すること。

【アシスタント・ティーチャープログラム】
英語圏の幼稚園、公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。
開催国及び開催時期の情報は随時更新される。
・対象学科・学年：ET学科、PC学科2年次生以上
・期間：春季休暇中または夏季休暇中10日間以上
・委託機関：ライトハウス

【イベントコース：まつりインハワイ】
「まつりインハワイ」の運営業務、「旅行管理主責任・取得研修」プログラム。
・対象学科・学年：ET学科2年次生以上
・期間：6月中旬の1週間と国内における3回の事前研修
・現在新型コロナウイルスの影響により開催未定。
・委託機関：近畿日本ツーリスト

授業計画

- 事前学習
- 事前学習
- 現地実習
- 現地実習
- 現地実習
- 現地実習
- 現地実習
- 現地実習

- 9 現地実習
- 10 現地実習
- 11 現地実習
- 12 現地実習
- 13 現地実習
- 14 現地実習
- 15 ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)及び発表

授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

課題・評価方法、その他

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、詳細は委託機関及び本学による。
各々のインターンシップは原則以下のプログラムによって構成される。

- ① 2～3回の事前学習（英語研修や実習準備など）
- ② 現地実習
- ③ ポートフォリオの提出（日報、レポートなど）と発表

欠席について

テキスト

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

そもそも観光とは何か。観光の始まりと現代社会での観光の役割を学ぶ。従来の観光を単なる物見遊山でなく社会の課題を観光の視点から考察する。観光全般の基礎知識の理解を目標とする。観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

観光とは何か。観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識を学ぶ。特に、地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義は進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光の重要性を理解する。観光概論は歴史、経済、政策、心理、主な観光産業等幅広い内容で構成される。

授業計画

- 1 ガイダンス
観光の現状を理解する。
- 2 観光学と観光の歴史
(観光の語源と定義・日本観光史他)
- 3 世界の観光史
- 4 観光と地域文化
(観光と環境)
- 5 新時代の観光文化
(観光資源とコンテンツツーリズム)
- 6 観光と多文化理解
- 7 観光心理
- 8 観光とマーケティング
- 9 観光の諸政策
(観光政策と仕組み)
- 10 主要な観光事業・鉄道事業
- 11 主要な観光事業・航空運送業
- 12 主要な観光事業・宿泊業
- 13 主要な観光事業・旅行業
- 14 主要な観光事業・遊園地とテーマパーク
- 15 観光学まとめ
総括試験

16

授業の方法

テキストとパワーポイントを併用して講義する。講義だけでなくグループディスカッションも取り入れていく。

準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

課題30％ 統括試験70％

欠席について

本学の規定通り。

テキスト

適宜資料配布

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラ・バード『日本奥地紀行』平凡社
高柳直弥他『新時代の観光を学ぶ』八千代出版 2019

留意事項

観光領域の基礎科目である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル経営			

授業の到達目標

GDP（国内総生産）の中で観光分野は大きなシェアを占めている。それは雇用の面でも同様である。観光は経済的な側面だけでなく国際交流の一面を持つ。世界の人々が国境を越えて互いに交流することは相互理解の促進に寄与する。この交流こそが平和への道筋である。お互いを理解し、認め合うことが、観光を通じて達成されるものと確信する。この授業の到達目標は、国際交流が観光を通してどの様に形成されたのか、今後どのようにすれば国際間、民族間の相互理解が可能かを考察する能力を身に付けることにある。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

国際観光交流論の中心テーマは、アウトバンドとインバウンドである。明治以降の日本のインバウンドの歴史や観光政策から戦後の訪日外国人観光客の実態までを理解する。特に、新たな産業政策のひとつに組み込まれたインバウンド政策を具体的に検証していく。また、観光先進国のフランス、ハワイの観光を理解することで今後の日本の観光戦略を考える。

授業計画

- 1 ガイダンス
国際観光交流論で何を学修するのかを理解する
- 2 日本における国際観光政策
- 3 国際観光政策と訪日外国人観光客
- 4 ビジット・ジャパン・キャンペーンと実態
- 5 コンベンションと国際観光
- 6 海外マーケットから見る国際観光
- 7 国際観光と旅行業
- 8 観光産業(宿泊・運輸・観光地)と国際観光
- 9 インバウンド政策と法律
- 10 外客誘致機関と戦略
- 11 フランスの観光と歴史(コートダジュールの事例から)
- 12 ハワイの観光の歴史と現状
- 13 シンガポールとIR
- 14 まとめ(国際観光の意義や今後の課題)
- 15 総括試験と解説

授業の方法

PowerPointによる講義を中心に行う。適宜、グループディスカッションを行う予定。

準備学修

図書館で講読されている国際観光、ホテルレストラン、観光経済新聞等を閲覧しておくこと。

課題・評価方法、その他

課題30%
総括試験70%

欠席について

大学規定通り

テキスト

資料は適宜配布

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社
その他、講義で紹介

留意事項

講義から得た知識から幅広く学修を重ねることに期待する。

オフィスアワー

オフィスアワー指定日は研究室で実施します。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光地理論			13840	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

海外旅行地理の基礎と海外の国々の観光・歴史・宗教・文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

海外の国々を、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア、中東、アフリカ等に分けて、世界の国、都市、地域、島、観光ポイントなどの必修知識を学習する。また同時に地図、写真、動画などのビジュアル資料から現地情報を学習する。

授業計画

- 1 「アジア」韓国・台湾・中国
- 2 「アジア」香港・マカオ・モンゴル・フィリピン
- 3 「アジア」ベトナム・ミャンマー・カンボジア・タイ
- 4 「アジア」マレーシア・シンガポール・インドネシア・インド・ネパール
- 5 「アジア」スリランカ・モルディブ・パキスタン・アフガニスタン・カザフスタン・ウズベキスタン・その他の国々
- 6 「ヨーロッパ」英国・アイルランド・ベルギー・オランダ
- 7 「ヨーロッパ」アイスランド・ノルウェー・スウェーデン・フィンランド・デンマーク・ドイツ
- 8 「ヨーロッパ」スイス・オーストリア・リヒテンシュタイン・フランス・モナコ
- 9 「ヨーロッパ」イタリア・バチカン市国・マルタ・スペイン・ポルトガル・ギリシャ
- 10 「ヨーロッパ」ポーランド・チェコ・ハンガリー・ブルガリア・ルーマニア・ロシア・その他の国々
- 11 「南北アメリカ」米国・カナダ
- 12 「南北アメリカ」メキシコ・キューバ・ペルー・ブラジル・アルゼンチン・その他の国々
- 13 「オセアニア」オーストラリア・ニュージーランド・グアム・フィジー・その他の国々
- 14 「中東・アフリカ」トルコ・イスラエル・アラブ首長国連邦・エジプト・南アフリカ・その他の国々
- 15 「総括」と試験

授業の方法

学習内容とリンクして、問題集や地図・写真・動画などのビジュアル資料を通して現地情報を学習する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は成績評価に反映する。

テキスト

『海外旅行実務 海外観光資源』JTB総合研究所
『海外観光地理 サブノート』JTB総合研究所

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスの最前線を体系的に学び、観光産業の基礎と実務を学ぶ。2019年に3,200万人を超えた訪日外国人観光旅行（インバウンド）ビジネスや2025年に開催される大阪万博などのメガイベントでの観光業の実務について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスの変遷について解説し、最前線の観光ビジネスについて事例を取り上げて理解を深める。観光分野の主要産業である旅行・宿泊・航空（交通）についての実務を学ぶ。また観光ビジネスで注目分野であるインバウンド・ビジネス（訪日外国人旅行）について、地域との連携や課題について学ぶ。また、オリンピック、マラソンなどスポーツイベントにおけるMICEビジネスについて観光産業が携わる実務について解説し、グループワークを通して理解を深める。

授業計画

- オリエンテーション
- 観光ビジネスの変遷について(マスツーリズムからの脱却)
- 旅行業ビジネス①
- 旅行業ビジネス②
- 旅行業法・約款、景品表示法等
- 宿泊業ビジネス
- 航空業ビジネス
- 交通事業ビジネス
- MICEビジネス①
- MICEビジネス②
- スポーツツーリズム
- インバウンドビジネス①
- インバウンドビジネス②
- 地域創生と観光ビジネス
- まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『世界一訪れたい日本のつくりかた』デービッド・アトキンソン著
東洋経済新報社
『CSV観光ビジネス』藤野公孝編著 学芸出版社
『スポーツマーケティング』原田宗彦編著 大修館書店

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。社会はますますグローバル化が加速している。企業が生まれ、成長し、発展していくが、その企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。社会に貢献できる企業とはどこなのか。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献など営利目的以外にも焦点を当て企業を理解し、企業の社会的意義を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの（A）自律と（In）国際性を養う。

授業の概要

企業の仕組みを深く知ることから始まる。各業界における市場環境はどのようなになっているのか。企業が生き残るためのリスクとは何か。研究対象の企業は、成長分野であるのか、衰退するのか、差別化はできているのかなどをポイントに分析をする。。講義の主な業種はホスピタリティ産業から金融、製造業など様々な企業を対象とする。有価証券報告書を参考に同業種や他産業の比較の中で、企業の姿を理解していく。

授業計画

- ガイダンス
- 株式会社と株式市場
- 企業と市場環境
- 企業研究(製造業・金融業)
- 企業研究(製造業・金融業)
- 企業研究(製造業・金融業)
- 企業研究の発表
- 企業研究の発表
- 前半のまとめ
- 企業研究の要点
- 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 企業研究の発表
- 企業研究の発表
- 後半のまとめ
- 企業研究と発表
- 16

授業の方法

講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。発表はPowerPointでおこなう。

準備学修

授業前の1週間の日経新聞の企業活動をよく読み、社会に関心を持つこと。
授業で注目した企業を紹介する。

課題・評価方法、その他

学生が注目した企業について教員がコメント・フィードバックを行う。評価基準は平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定通り

テキスト

日経業界地図（日経出版社）

参考図書

会社四季報

留意事項

適宜アドバイスする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ（国内）			13969	Ⅱ・Ⅲ	春	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

将来、観光関連企業（旅行会社・ホテル・観光局など）及その他の企業に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。インターンシップ参加に際してのエントリーシート作成、業界研究や企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS（奉仕）とA（自立）を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験（インターンシップ）及び体験発表からなる。事前研修では業界研究や企業コンプライアンスなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。またインターンシップ参加へのエントリーシート作成を行う。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日～4週間となる。尚、体験発表は10月上旬（秋学期・土曜日）に実施する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 インターンシップとは
- 3 企業コンプライアンスについて
- 4 業界研究①
- 5 業界研究②
- 6 エントリーシート作成①(自己PR)
- 7 エントリーシート作成②(志望動機など)
- 8 インターンシップ受け入れ企業研究
- 9 インターンシップの目標設定
- 10 就業体験①
- 11 就業体験②
- 12 就業体験③
- 13 就業体験④
- 14 就業体験⑤
- 15 就業体験発表

授業の方法

グループワークを中心とした講義と就業体験及びプレゼンテーションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題は就業体験レポートとプレゼンテーション
評価は平常点30%、就業体験50%、プレゼンテーション20%
就業体験は5日間で35時間とする。

欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

講義内で紹介する。

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業が対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。
学生自身が修業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。（最低5日間の就業体験が必要）
大学がインターンシップ先を提供できない場合がある。
履修者が30名を超えた場合は抽選とするので、第1回目オリエンテーションは必ず参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。製造業の組織管理とホスピタリティ産業の組織管理の違いを学ぶ。ホスピタリティマネジメントはホスピタリティ産業の運営の価値を上げる手法を学ぶ。ホスピタリティ産業は、形のない製品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティ産業の組織は、どのように管理されるべきか、どのように運営すべきかを学ぶ。ホスピタリティ産業のマネジメント＆マーケティングを理解することで、経営感覚を身に付ける。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

講義は、理論と事例研究に分けて構成されている。Dr.kotlerの理論に基づき、ホスピタリティとサービスの違い、マネジメントの理論とマーケティング戦略の基本を中心に構成されている。市場における競争優位は、製品の差別化で達成できるのか、模倣されない差別化とは何かを理解する。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしで収益を上げることは可能か、収益とはどこからくるのかを理解する。マーケティングのフレームワークを理解し、外部環境やどのような戦略があるのかを学ぶ。特に、コア・コンピタンス経営に焦点を当て、成長する企業（ホテル・旅館・テーマパーク等）から学ぶ。

授業計画

- 1 ガイダンス
（どの様なことを学修するか解説）
- 2 ホスピタリティの歴史と文化
（ホスピタリティ精神論での学びを復習）
- 3 ホスピタリティ・サービスの語源
（「最高のサービスを受けた」で、これってホスピタリティなの）
- 4 ホスピタリティ産業の製品特性
（ホスピタリティ産業には共通する特性がある。あなたはディズニーリゾートから帰った夜に手元に何が残っていますか）
- 5 マーケティング戦略・マーケティングミックス
（「製品・サービスが良ければ人は購入するの？」の疑問に答える）
- 6 ホスピタリティ産業における企業理念・ビジョン
（バイト先の朝礼で「我社は〇〇を目指す」これって必要かなあ？）
- 7 ホスピタリティ産業におけるSWOT分析とPDCA
（世の中の影響を受ける企業、乗り切る企業、どう違うの）
- 8 ホスピタリティ産業における労働生産性
（ホテル・旅館の労働生産性が低い？どうすればいいのか、考えよう）
- 9 ホスピタリティ産業における顧客サービス
（顧客サービスで収益アップ、バイト先のあなたの行動が収益を変える）
- 10 企業の広報とリスクマネジメント

- （社長の「私は寝てないんだよ！」「どこもやっています」の一言で会社が潰れる）
- 11 ザ・リッツカールトンに観るホスピタリティの実践
（グローバル企業に観るホスピタリティの実践に迫る）
 - 12 組織と価値観 道頓堀ホテルの事例
（ラグジュアリーホテルだけでない、愛されるホテルは大阪にもあった）
 - 13 事例で考えるクレーム処理
（クレームを企業イノベーションに活用しよう）
 - 14 企業再生 行き詰った企業を再生する
（企業を再生する本当の主役は誰だ）
 - 15 まとめと総括試験

授業の方法

PowerPointによる講義。テキストは使用しないのでノートをとること。また、DVDを利用して事例研究をおこなう。

準備学修

ホスピタリティ関連の書籍を読むこと。日刊紙、経済新聞等を読むこと。

課題・評価方法、その他

課題30%
総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

特に予定していない。

適宜資料配布

参考図書

服部勝人『ホスピタリティマネジメント入門』丸善
Jay B. Barney（岡田正大訳）『企業戦略論』ダイヤモンド社
P.F.Drucker（上田惇生訳）『マネジメント』
Kotler（平井祥訳）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

留意事項

講義だけでなく、講義で得た知識で社会を観る事で講義の内容が活かされる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

観光立国を目指した国家戦略は訪日外客誘致を増加させた。その結果、宿泊業界に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は旅館、ホテルの歴史や経営・運営に関して学修する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業に焦点を当て現代ホテル産業の組織及び運営・経営方式などを理解する。理解を助ける補助教材として日本ホテル協会監修の研修資料を参考に理解を深める。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

- 1 ガイドانس
- 2 ホテル産業史Ⅰ
- 3 ホテル産業史Ⅱ
- 4 ホテル産業史Ⅲ
- 5 宿泊産業の市場特性
- 6 ホテルの組織と役割
- 7 客室事業・基本業務
- 8 客室事業・組織とサービス
- 9 客室事業・価格戦略
- 10 料飲事業
- 11 バンケット事業
- 12 プライダル事業
- 13 MICE事業
- 14 ホテル再生
- 15 まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法、その他

課題30%、総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

適宜資料配布

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』
鈴木博、大庭祺一郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。事前にテキストを予習すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値に注目するため、各自神戸の町に出てレポートし、発表を行う。

授業計画

- 1 神戸海岸通りと旧居留地
陳舜臣「枯草の根」を読み、神戸居留地の歴史を振り返る。
- 2 神戸の海岸線
村上春樹「ノルウェイの森」・「5月の海岸線」を読み、神戸の海岸線埋め立てによる開発を考察する
- 3 雑居地文化と異人館通り
宮本輝「花の降る午後」を読む。雑居地に暮らし、戦争を乗り越えた外国人たちの文化を考察する。神戸のスイーツやパン、洋食文化にも触れる。
- 4 神戸モダニズム
稲垣足穂「星を造る人」を読み、トーアロード周辺から発信された、神戸モダニズムについて考察する。
- 5 他地域からの視点
堀辰雄「旅の絵」を読み、東京からのお客様である堀辰雄を案内した竹中郁のエッセイにも触れる。外から見た神戸文化について考察する
- 6 ミステリー発祥の地としての神戸
横溝正史「虹のある風景」を読み、新開地出身のミステリー作家が描く労働者の町神戸の文化発展を考察する。
- 7 川崎造船所と神戸の町
久坂葉子「ドミノのお告げ」を読む。カワサキワールド・神戸海洋博物館にも触れ、神戸の経済を支えて来た川崎造船所の神戸経済への影響力を考察する。
- 8 鈴木商店を支えた女性
玉岡かおる「お家さん」を読む。かつて世界を掴んだ神戸の個人商店鈴木商店。その歩みと、鈴木商店を支えた神戸の女性の生き方を考察する。

- 9 プレゼンテーション発表
- 10 プレゼンテーション発表
- 11 プレゼンテーション発表
- 12 プレゼンテーション発表
- 13 映画に登場する神戸の風景
有川浩「阪急電車」における神戸ロケの意義について考察する。
- 14 神戸モダニズムの転換期
昭和40年代の神戸と阪神間文化について考察する。かつてモダンと呼ばれた文化がレトロと呼ばれるようになった時、神戸では何が起こったのか。文学作品を参考資料として考察していく。
- 15 神戸と坂の物語
神戸には、坂があるからこそ生まれた物語がある。それらを、考察していくことでまとめとする。

授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自が取材した神戸についての発表を行い、それについてのディスカッションを行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。出席状況（30%）、ノート評価（30%）、発表（20%）、レポート（20%）

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。